

平成28年度 第2回 援助会員養成講座

会 場：ワークセンター松阪内 労働会館 2階会議室(松阪市上川町212-1)
 対 象：松阪市内及び近隣市町に在住する20歳以上の方
 募集人数：30名(先着順)
 受 講 料：無料(但しテキスト代2,200円が必要となります)
 託 児：無料 必要な方は、1月10日(火)までにお申し込みください。(飲み物・おやつをご持参ください)



月 日	時 間	内 容	講 師
1月17日(火)	9:40～ 9:50	オリエンテーション	まつさかファミリーサポートセンター アドバイザー
	9:50～11:20	①保育サポーターの役割と心得	(特)松阪子どもNPOセンター 理事長 塩谷 明美
	11:30～12:00	②松阪市の子育て支援サービスの現状	松阪市福祉事務所こども未来課 こども担当主幹 鈴木 良行
	13:00～15:00	③子どもの遊び	学校法人大橋学園短期大学 設置準備室 教員 山野 栄子
1月21日(土)	9:30～12:30	④小児看護	(株)ジェネラス訪問看護ステーション ほたるいせ管理者 岡田 まり
	13:30～15:00	⑤乳児の暮らしとケア	松阪市健康ほけん部健康推進課 母子保健担当主任 世古 章子
1月22日(日)	9:30～12:30	⑥子どもの心の発達と障害について	高田短期大学子ども学科 学科長 千草 篤磨
	13:30～16:30	⑦子どもの事故と安全・幼児救急法	日本赤十字社三重県支部 富内 直美
1月26日(木)	9:30～12:30	⑧子どもの栄養と食生活	元三重中京大学食物栄養学科 教授 馬場 啓子
	13:30～16:30	⑨子どもの発達と病気	イワサ小児科 理事長 岩佐 敏秋
1月28日(土)	9:30～11:30	⑩保育の心	育児支援アドバイザー 堀川 美子
	11:40～12:10	⑪事業を円滑にすすめるために	まつさかファミリーサポートセンター アドバイザー
	13:10～15:40	⑫講座を振り返って	まつさかファミリーサポートセンター アドバイザー

★ 1時間の利用料金 ★

★ 援助開始3時間前までに依頼があった場合 ★	
平日 7:00～19:00	700円
平日の上記以外の時間・土日祝日	800円
年末年始(12月29日から1月3日)	1,000円
★ 援助開始まで3時間を切った場合・軽い病児・病後児 ★	
平日 7:00～19:00	1,000円
平日の上記以外の時間・土日祝日	1,200円
年末年始(12月29日から1月3日)	1,400円

★ 1回あたりの宿泊の利用料金 ★

22:00～6:00(連続8時間)	5,000円
年末年始の同じ時間(12月29日から1月3日)	7,000円

まつさかファミリーサポートセンター

〒515-0084 松阪市日野町788 カリヨンプラザ1階
 (特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター内)

TEL/FAX 0598-20-8246
 E-mail mfsc@mknpo.jp
 ホームページ <http://www.mknpo.jp/mfsc/>
 開 所 時 間 月曜～金曜 8:30～19:00

『あなたの子育て応援します』

2017年1月(第27号)

ファミサポ ホットタイム

発行元：まつさかファミリーサポートセンター

あけましておめでとうございます

昨年11月、イタリア北部にあるレッジョ・エミリア市に「子どもを主体とした」乳幼児教育の視察に行きました。そこでは、「子どもが100人いれば100通りの考えや表現がある」という考え方をもとに、家庭や保育所、学校だけではなく、自治体や地域全体で子どもの教育に取り組んでいます。子ども一人ひとりが何に興味があり、何を感じているかが尊重され、子ども自身が考え、仲間や先生と話し合い、協力し合い、失敗をしながら自分で答えを見つける保育が実践されています。とりわけ、自分の考えを話し、他人の考えを聴くことが大切にされ、小さい頃からお互いの違いを認め合う環境が作られていると感じました。

ファミリーサポート事業においても、子どもの力を信じ、地域の中で関わっていくことで、子どもと子育て家庭を支えていきたいと思います。

特定非営利活動法人 松阪子ども NPOセンター
 理事長 塩谷 明美

平成28年度ステップアップ講座

日 時：10月30日(日) 13:30～16:30 会 場：労働会館 ワークセンター松阪内
 講 師：谷岡 とし子さん(大阪発達障害総合支援センター児童発達支援部部长)

今回のステップアップ講座は、平成27年度ファミリー・サポート・センター全国アドバイザー講習会・交流会に参加して谷岡先生のお話を聞いて、ぜひ当センターにて講演をお願いしたいと思い、さっそく依頼をしました。子ども支援をしている方、子育て中の方にも広げて開催しました。

「発達障がいのある子どもの理解と支援」90分の講義では、子どもの気持ちを理解し寄り添う支援のあり方を事例などを上げて解りやすく話していただきました。子どもが発した「このお茶嫌い」という言葉の奥には「いつも家で飲んでいるお茶じゃない」という気持ちがあるかもしれません。

言葉の奥にある気持ちは様々です。子どもに寄り添い、その子の気持ちを考えることが大切だと思います。

グループワーク80分では参加者自身が事例の「車に乗りたくない」という子どもの気持ちをそれぞれが出し合いグループごとに発表し、共有しました。



まつさかファミリーサポートセンターは(特)松阪子どもNPOセンターが松阪市より委託を受けて運営しています



援助会員養成講座の再受講について

松阪市より、まつさかファミリーサポートセンター事業の委託を受けて13年が経過した今年度より、援助会員登録から5年以上経過した方に対して、援助会員養成講座を再受講していただくことになりました。急速な少子化の進行や家庭・地域の環境の変化をとらえて、養成講座の内容も年々深まり、援助会員の更なる質の向上を目指しています。2年間で主な講座から6講座の再受講を呼びかけました。162名の対象者のうち初回は37名の受講者がありました。(1講座を含む)



会員の声

再受講の企画をしていただき、大変嬉しく思い早速受講させていただきました。日常、子どもにどう接したらよいか壁にぶつかったり、お家の方とどのように対応していったらよいかと思い悩む中、今一度自分が原点に振り返り立ち、やはり愛し愛され共に成長してゆくことが大事で、いつの時代も子どもはこの世の宝物であるということを再認識いたしました。

障害を持つ子どもさんに対応するときの留意点のお話はとてもわかりやすく勉強になりましたし、病気や予防接種のお話しも今の子どもたちと直接結びつき役に立ちました。

また、子どもの権利=rightsということを知り、子どもをお預かりするということは、安心や元気のための役割であることに、あらためて気付かせていただくことができました。子どもと新しい気持ちで向き合うことができました。

また、このような機会をいただければありがたいと思います。どうもありがとうございました。

援助会員 M・S



講座受講の様子



人形を使って乳児のケアを体験

リオ・オリンピックでの若い選手の活躍に感動し、心躍らされたこの夏。さらに、心の栄養と脳の活性化をもたらしてくれたのは、ファミサポ在籍5年以上の援助会員を対象とした養成講座の再受講でした。

最初の受講から、はや9年余り。子どもや親を取り巻く社会環境が複雑に変化する中、現状に見合った子育てのあり方や子育てに関する知識や情報などをわかりやすく、丁寧に教えていただきました。サポーターとしての心得、子ども

の発育と病気、看護、食生活、遊び、心の発達と障害、子育て支援サービスの現状等々、さまざまな分野をトータルに学び直すことができ、あらためて子育て支援の仕事に向き合うエネルギーを与えてもらったような気がします。

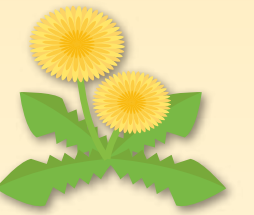
子どもが健やかに育つこと、親が親として育つことが難しくなっている今の時代。子育てが孤立することのないように、いろいろな人との関わりの中で子どもが成長していけるように、“みんなで子育て”のお手伝いをしていきたいと思っています。

援助会員 M・H

ファミリー・サポート・センター 全国アドバイザー講習会・交流会に参加して

10月6日(木) 10:00～17:00ホテル大阪ベイタワーにおいて全国交流会があり、まつさかファミリーサポートセンターからも4人のアドバイザーが参加しました。

「いま、ファミリー・サポート・センターに求められることとは」というテーマで、西日本のファミリーサポートセンター関係者130数名が一堂に会し研修を行いました。



◆基調講演より

日本福祉大学子ども発達学部子ども発達学科教授渡辺顕一郎先生による「地域における子育て支援」と題した講演でした。

ひと昔前の日本では、世代を超えた子育て経験の受け渡しと、子育て現役世代の支え合いを中心に成り立っていた子育てという営みがありました。しかし、子育てを取り巻く現代の社会においては、その社会関係は希薄化し、縦のつながりも横のつながりもない、家庭の孤立が課題となっているのが現状です。お母さんにばかり、育児の責任がのしかかっている家庭も少なくありません。講演の中で、子育ては親だけの役割ではなく、親以外の親族・地域の支えによって、皆で行うものであると話されていました。子どもにとって、地域の中に存在する母性や父性に接する機会を広げ、社会に対する信頼感を高めていくことが、多様な選択肢から自分らしい生き方を選び取るための基盤となる。また、家庭の孤立を防ぎ、親が子どもに向き合うゆとりと自信を高めていけるように、世代や立場を超えた地域の人たちの支えを得て子育てができる環境をつくりだしていくことが大切と話されていました。

ファミサポは、お母さんの気持ちに寄り添い、保育の隙間を埋める役割だけではなく、地域の子育てを支えることも担っています。これからは、縦のつながりだけでなく、親同士の支え合いも必要だと思います。ファミサポが交流会などの機会を通じて、縦のつながり、横のつながりの中心となれるような地域づくりができたらいいなと思った講演でした。

アドバイザー 西村 理沙

◆事例発表とグループワークより

愛知県幸田町、和歌山県田辺市、長崎県佐世保市の3か所のファミリーサポートセンターから、それぞれの地域に根差した活動の発表がありました。更に、参加者全員がグループに分かれて情報交換を行いました。

マッチングや依頼は当人同士にお任せしている大都市の事務所、車での送迎や病児・病後児預かりはしていないところ、送迎の際はタクシーを利用しているところもありました。また、妊娠期から登録してもらい、安心感を持って出産に臨んでもらうという取り組みもあり、産前産後の妊婦さんの孤立を防ぐ意味でも大変有意義だと思いました。

いずれのファミサポでも会員数の増加を大きな目標に掲げて、市の広報誌の見開き2ページにわたって子育て支援の諸機関と合同で大きく特集を組んだり、広範囲の地域性に対応するために事務所以外でも入会登録を行ったり、支援センター等へ出向いてアピールする等、様々な工夫を凝らしていました。新規入会の際には、利用に使える割引券を1枚サービスするところもありました。

私たちまつさかファミリーサポートセンターも、積極的に外へ出て周知を徹底し、広報の工夫をしているところです。そして、各世代の方に、子育て・孫育ての為のスキルアップに養成講座を活用してもらい、会員を増やして、地域全体で子どもの成長を見守り、助け合えるような組織にしていきたいです。

アドバイザー 佐藤 美加里